

出題分析			
試験時間	120分	配点	学部により 230～280点
		大問数	3題
分量（昨年比較）	[減少] 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較）	[易化] [同程度] 難化]
<p>【概評】</p> <p>昨年度は長文読解2題・自由英作文1題・リスニング1題の計4題という構成であったが、今年度はリスニングが廃止され、長文読解2題・自由英作文1題の計3題となった。リスニングに代わる新たな大問の出題はなく、問題全体の分量は昨年度より減少している。大問Ⅰの長文読解が日本語による的確な表現力を要求する設問であるのに対し、大問Ⅱの長文読解は文法・語法・語彙の知識を問うものが中心であった。自由英作文は毎年出題形式が安定しないが、今年度は2017年度に出題された「3つの状況の中から1つを選んで手紙を書く」という問題に近かった。問題全体の分量は減少したものの、大問Ⅰの記述問題の難度が高いため、全体としての難易度は昨年度と同程度であると言ってよいだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「監視技術がコミュニティーにもたらす功罪」	約2ページ半の長文を題材に、内容説明が3問、下線部和訳が2問出題された。1の内容説明は、的確な日本語で簡潔にまとめる必要があり難しい。2・3の下線部和訳は、文構造や語彙に難解なところもなく比較的平易である。4の内容説明は、制限字数内に収めるのに苦労するかもしれない。5の内容説明は「技術的な状況」の意味するところがわかりにくい。監視技術の現状に関する説明だけでなく、筆者の主張を理解しているかも併せて問われていると考えて解答例を作成した。「60字以内」という制限字数内で過不足なくまとめるのは容易ではない。	やや難
II	長文読解問題 「動物に意識はあるのか」	2ページ強の長文を題材に、下線部と同じ用法の語を選ぶ問題が2問、空所補充が2問（計7か所）、語句整序が3問出題された。thatとwhatの用法を識別する問題は標準的な難易度である。空所補充は接続詞的な表現を選ぶものが3問、副詞を選ぶものが4問で、空所前後の内容を正確に把握できれば解答できるものが多い。語句整序も落ち着いて取り組めばそれほど難しくない。	標準

Ⅲ	自由英作文問題	昨年度は3つの質問のうち1つを選んで答える形式であったが、今年度は与えられた3つの状況から1つを選んでメッセージを書くという形式になった。指定語数は昨年度と同じく100～140語で、「1. 親が子どもが通う学校の校長先生に面談の機会を求める」「2. 高校生が公園の修繕費の寄付を地元の企業に求める」「3. 初めて一人で海外旅行をする大学生が友人にアドバイスを求める」という3つの状況が与えられている。指定語数を満たすためには、想像をふくらませて創作的な文章を書く必要がある。	標準
---	---------	---	----

合格のための学習法

一橋大の英語の問題は、読解力と記述力を測る問題が中心となっている。長文読解の英文は語彙のレベルが特別高いというわけではないが、本文の主旨や全体の流れを正確に把握するのは意外と難しい。下線部和訳や内容説明でポイントを外さないように、注意深く読み進めることが大切である。自由英作文は年度によって出題形式にマイナーチェンジが見られるので、過去問を解いているいろいろな形式に対処できるようにしておきたい。日本語による記述式の問題や自由英作文問題への対応力をつけるためには、まず自分で解答を作成し、添削を受け、修正点を踏まえて再度解答を作成するというプロセスを繰り返すとよいだろう。